

いぬのうた



えとぶん・たけのこ



ふわふわの子犬のころんは、
好奇心いっぱい、楽しい事がだい好き。
今日はどんな楽しい事がおこるかな？

文・絵 なつの そら



あるひ、こいぬのころんが
さんぼをしていると、
おおきなきに、とりたちがあつまつて、
うたをうたっていました。
「じょうずだね。」
と、ころんがいうと、とりたちは、
「そのみをたべて、
あなたもたべて。」
「きいろいみをたべて。」
とくちぐちにうたいました。

ころんは、そばにあったきいろいみを、
たべてみました。
すると、



「あーおいしー♪」
くちからでたことばが、
うたになりました。
「あれー？ ぼく、うたってる♪」
ころんは、たのしくなって、
とりたちといっしょに
うたいました。



しばらくして、とりたちに
「さよーならー♪」
とうたうと、
またあるきだしました。

こんどは、おおきな
いわのところで、
りすたちが
おどっていました。



ころんが
「じょうずにおどるねー♪」
と、うたうと、
「いっしょにおどろうよ。」
「そのあかみをたべて、
きみもたべて。」
と、りすたちがいました。



ころんは、リすたちに
さよならをいってから、
またあるきだしました。
しばらくすると、
おおきなはっぱのかげで、
かえるが

「げげげ」

と、なっていました。

「ふふふ、へんなうたー♪」
ころんは、わらいました。
かえるは、
しらんかおをして、
びよーんとはねました。



「あはは、へんなおどり♪」
ころんは、
かえるのすることが、
おかしくて
しかたありません。

そして、
「みてみてー♪じょうずでしょー♪
ぼくはー、うたも、おどりもー
せかいーいちー♪」
と、かえるのまえで、たのしそうに
うたっておどりました。



「おどってるんじゃないよ。

あれをとりたいんだ。じゃましないで。」

かえるは、おこっていいました。

かえるがゆびさしたさきには、

つやつやした あおいみが ありました。

「わー、きれいだねー、おいしそう♪」

ころんがうたうと、

「だめだよ、あれはぼくのだからね。」

と、かえるが いいました。

ころんは、かんがえました。

あのみをたべたら、

どんなすてきなことが

おこるんだろう？



「かえるさーん、
ぼくがとってあげるからー、
はんぶんこしようよー♪」
ころんは、ちからいっぱい
じゃんぶしました。



「たべちゃだめー!」
と、かえるがさげんだけれど、
ころんは、ひとくちかじって
のみこみました。



「いいじゃない、すこしくらい。」
ころんのことばは、もう、
うたになりませんでした。
そして、
すごくかなしくなりました。
「うたえないよ。かなしいよ。」
なみだがでてきて、
とまらなくなりました。



「それは、あめのみだよ。」

「あめのみ？」

「たべるんじゃないよ。」

そのみを、はっぱにつつんで、

つちにうめたら、あめがふるんだ。」



かえるが、

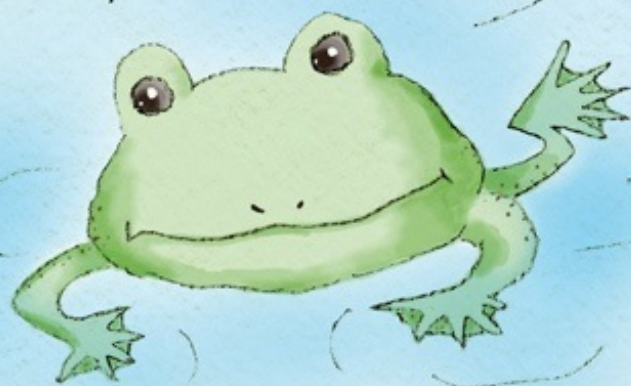
はなしをしているあいだに、

ころんのなみだで、おおきな

みずたまりができました。



「たべないでって、いったのに。」
かえるは、けろけろと
じょうずにうたうと、
もういけくらいのおおきさになった
みずたまりのなかを、
すいすいおよいでいってしまいました。



ころんは、かえるのうたを
わらったことや、

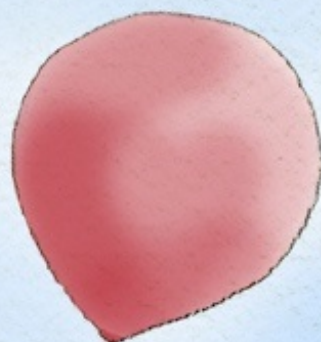
かえるのいうことを
きかなかったことを、
こうかいしました。

なみだはどんどん
あふれてとまらず、
ころんのうしろに、
かわができました。

どこからか、くまがやってきて
「そんなに ないたら、

もりが、みずびたしになるよ。
これをあげるから、もうなかないで。」
と、ふうせんをくれました。

ころんが、ふうせんをもつと、
からだがふわりとうきました。



ころんがなきながらとんでいったので、
もりは、あめになりました。
ザーザーザーザーザー。





あんまり あめがふるので、
そらのかみさまが、しんぱいして、
てんしを、おつかいに だしました。
てんしは、ころんを みつけて、
とんできました。
「あなた、あめのみを たべたのね。
たべては いけないと、
だれも 言って くれなかつたの？」
てんしに きかれて、
ころんは、もつと かなしく なりました。



「かえるさんに いわれたのに、
ぼく、たべちゃつたの。
ごめんなさい。」
ころんは、わんわん なきました。
ころんの なみだが ひとつづい、
てんしの ての ひらに のつて、
きれいな たまになりました。



「あなたに、これを

つけてあげましょう。」

てんしは、ころんのなみだでできた
ぺんだんとを、つけてくれました。

すると、きゆうに、

かなしいきもちがきえて、

ころんのなみだがとまりました。

「あなたが、ただしいところを

もっていけば、

このぺんだんとは、

いつまでもかがやいて、

あなたをまもってくれます。

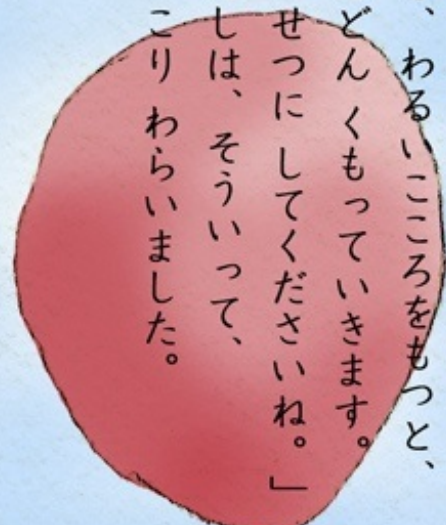
でも、わるいところをもつと、

どんどんくもっていきます。

たいせつにしてくださいね。」

てんしは、そういって、

にっこりわらいました。



ころんは、おおきなこえで

「ありがとう！」

と、いいました。

くさのうえにおりたころんは、
もうないていません。
にこにこえがおの、
ふつうのころんにもどりました。
ころんは、
あのかえるにあったら、
あやまろう。
それから、いっしょに
うたをうたおう！
と、おもいました。

おしまい。



わたしの娘もころんと同じ、好奇心いっぱいです。

でも、ちょっぴり思いやりが足りなくて。。

私もたぶん、こんな失敗を繰り返して大人になった気がします。

大切な娘と、地球の未来を担う子供たちが、優しい心を持てますように。

なつの そら
